

職業レディネス・テストの薦め



日本体育大学 教授
本間啓二

「職業レディネス・テスト」は、昭和47年（1972）に中学生・高校生の職業的な発達準備度を測定する検査として公表され、進路指導用として中学校・高等学校で広く活用されるようになった。平成元年（1989）には、改訂版としてホランドの職業選択理論の考え方を導入した第2版「新版 職業レディネス・テスト」が公表された。

その後、産業構造の変化や科学技術の進展、情報化技術の発展などにより職業世界の構造も大きく変化していること、中学生や高校生の職業選択の考え方も変化していることから、第3版に向けた改訂作業が平成15年（2003）から進められた。

改訂にあたっては、現状の中学生・高校生の基準データの作成と検査を構成する尺度の見直し、結果を解釈するためのワークシートの開発が研究の中心となり、平成18年（2006）に「職業レディネス・テスト第3版」として公表するに至った。

【改訂の要点】

・尺度の改訂：A検査（職業興味）とC検査（職務遂行の自信度）については、54項目のうち10項目を新規に追加し、2項目が興味領域の変更となった。B検査は、検査内容を全面的に作り直した。

・換算点の変更：全国の中学生100、996名、高校生17、104名の協

力による標準化調査により新たに規準を作成し、換算表を中学生、高校生以上用に分け、換算点をパーセンタイル順位で男女別に表した。

・ワークシートの開発：中学生、高校生が結果の整理と解釈ができるワークシートを開発した。内容は、WORK1～WORK3の基礎ワークとWORKプラスとした発展ワークの4つで構成されている。

【検査の特色】

(1) A検査から測定される職業に対する興味の傾向を、ホランド理論の六角形に配列した職業構造の図から分かりやすく説明できるようにしたこと。

(2) B検査において、日常の生活行動・意識や態度の面から生徒の基礎的志向性を探索できるようにし、生徒の態度・行動観察の指針としても活用できるようにしたこと。

(3) A検査とC検査の結果を同じプロフィール上に表すことで、職業に対する興味と職務遂行の自信度を対照することができ、職業に対する自己の構えを深く理解することができるようにしたこと。

(4) 検査結果を進路学習の教材として活用できるようにワークシートが工夫されていること。

【職業レディネス・テストの活用】

キャリア教育の基本的な目標は、生徒の社会的・職業的自立に向けて必要

な基盤となる能力や態度を発達の段階に応じて育てていくことにある。また、進路指導においても、生徒自身が自らの進路を選択し、決定することができるように援助することが求められている。

学習指導要領においても教育課程として、特別活動の領域にある学級（ホームルーム）活動の内容に「③ 学業と進路」として、進路適性の吟味（理解）、職業情報の活用、望ましい勤労観・職業観の形成（確立）、主体的な進路の選択決定と将来設計などの進路学習の項目が示されている。つまり、生徒の進むべき進路に関する情報の理解を促進させることにも、生徒自身の自己への理解を深め、職業適性への理解が図られなければならぬわけである。

進路指導の理念でもある生徒の個性を尊重し、その伸長を図っていく教育には、生徒の進路への選択行動に向かう条件や状態を把握し、そのうえにたつた指導が重要である。

本検査は、個人が特定の職業分野に進んでいく要因やその心理的構造を理解するためのツールであり、教師自身にとつても学業だけでない生徒理解の側面が深まり、進路適性を踏まえた適切な進路指導の実践が期待でき、個性を尊重し伸長させる進路指導の充実に貢献できるものである。